



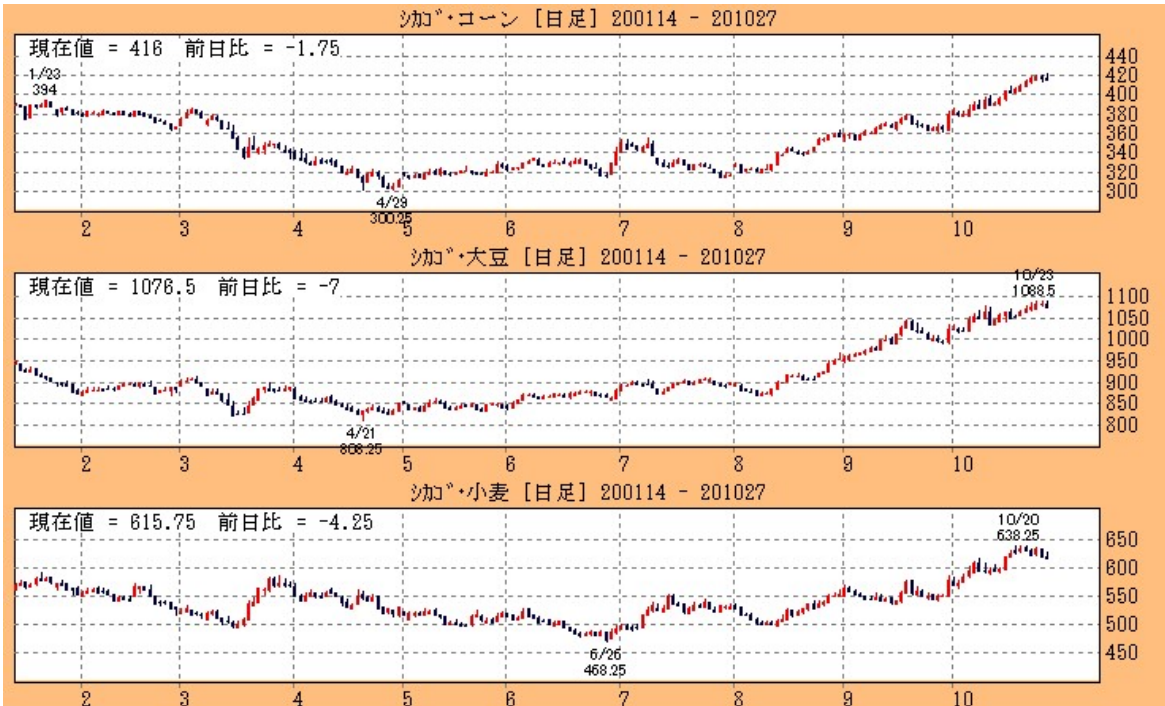
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは続落、大豆は反落

2020/10/28



27日のシカゴトウモロコシ12月限は前日比▲1.75セントの416.00セントと続落。取引レンジは415.50セント～422.25セント。韓国や台湾からの輸入需要の高まりやドル安傾向を背景に、一時は422.25セントと前週末の高値を更新したが、その後は利益確定売りが広がり軟調な展開となった。大豆や小麦の下落も圧迫要因となったほか、月末要因や米大統領選を控えたポジション調整もあり、引けにかけて値位置を切り下げ、安値圏のまま取引を終えた。

27日のシカゴ大豆1月限は前日比▲7.00セントの1076.50セントと反落。取引レンジは1076.25セント～1088.50セント。シカゴの時間帯序盤にはこれまでの好調な輸出と中国向けの輸出拡大期待やドル安傾向を受け、一時は2016年7月14日以来の高値となる1088.50セントを付ける場面もあったが、その後利益確定の売りが強まった。米農務省による新たな輸出大口成約の発表もなく、買い材料に乏しかった。月末要因や米大統領選を控えたポジション調整もあり、引けにかけて1076.25セントまで値位置を切り下げると、安値圏のまま取引を終えた。

27日のシカゴ小麦12月限は前日比▲4.25セントの615.75セントと続落。取引レンジは614.75セント～627.00セント。土壌水分の乾燥が懸念される米国やロシアの主産地黒海で継続的に雨が降り、作付け間もない冬小麦の生育が回復し減産懸念が薄れたことで、売りが先行した。先週、約6年ぶりの高値となっていることから、利益確定の売りも出やすかったもよう。



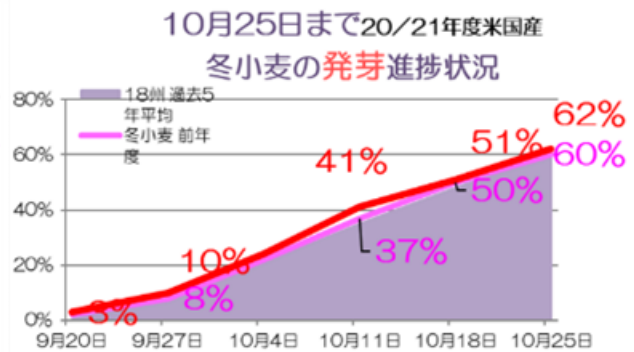
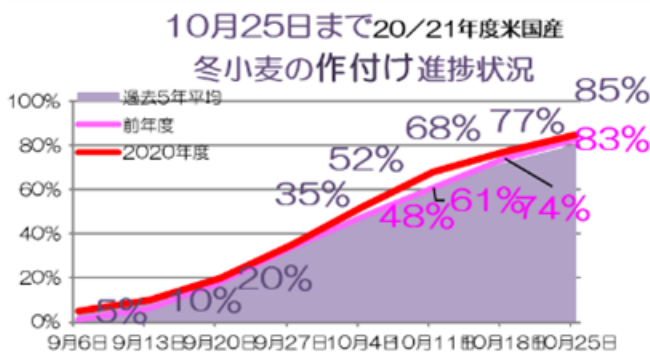
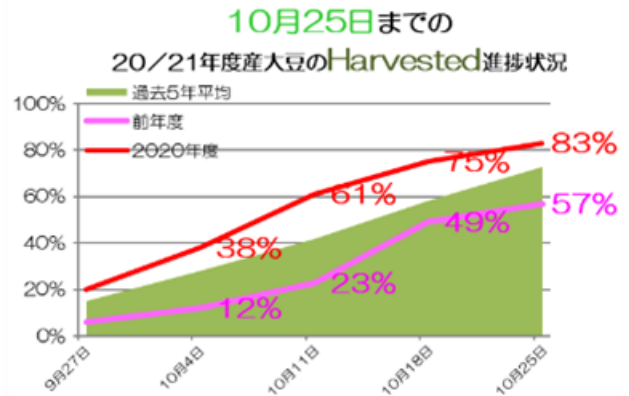
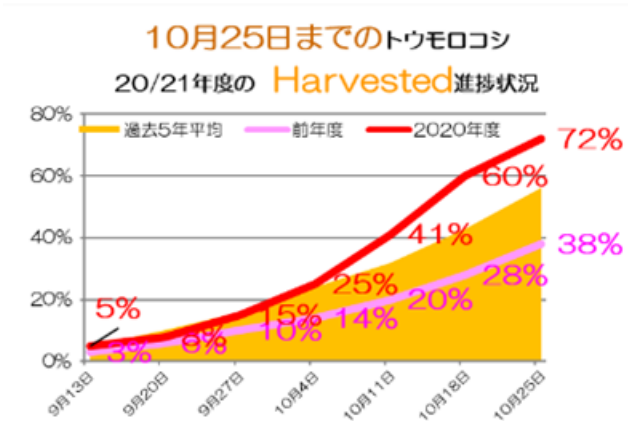
Crop Progress

トウモロコシ				18州
Harvested	前年度	2020年度	過去5年平均	
9月13日	3%	5%	5%	
9月20日	6%	8%	10%	
9月27日	10%	15%	16%	
10月4日	14%	25%	24%	
10月11日	20%	41%	32%	
10月18日	28%	60%	43%	
10月25日	38%	72%	56%	

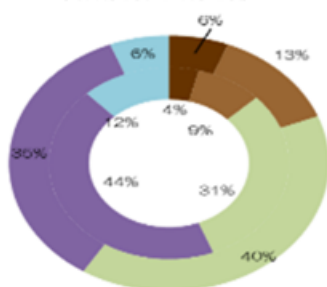
冬小麦				18州	冬小麦				18州
作付け	前年度	2020年度	過去5年平均		Emerged	前年度	2020年度	過去5年平均	
9月6日	1%	5%	3%		9月20日	2%	3%	2%	
9月13日	6%	10%	8%		9月27日	8%	10%	8%	
9月20日	18%	20%	19%		10月4日	22%	24%	21%	
9月27日	34%	35%	33%		10月11日	37%	41%	35%	
10月4日	48%	52%	47%		10月18日	50%	51%	48%	
10月11日	61%	68%	61%		10月25日	60%	62%	60%	
10月18日	74%	77%	72%						
10月25日	83%	85%	80%						

大豆				18州
収穫	前年度	2020年度	過去5年平均	
9月27日	6%	20%	15%	
10月4日	12%	38%	28%	
10月11日	23%	61%	42%	
10月18日	40%	75%	58%	
10月25日	57%	83%	73%	

10月25日の米国産トウモロコシの収穫は60%完了(前年は28%、過去5年平均は43%) 大豆の収穫は83%完了(前年は57%、過去5年平均は73%) 冬小麦の作付けは85%(前年は83%、過去5年平均は80%) 冬小麦の開花は62%(前年は60%、過去5年平均は60%)



2020年10月25日冬小麦の作柄
(内割前年度: 外割今年度)



冬小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
10月25日	6%	13%	40%	35%	6%	41%
前年度	4%	9%	31%	44%	12%	56%



中国のトウモロコシ需給 by 10月2日 USDA Gain Report

千ヘクトール・千 トン	2013/14年度 (13年10月~)	2014/15年度 (14年10月~)	前年比	2015/16年度 (15年10月~)	前年比	2016/17年度 (16年10月~)	前年比	2017/18年度 (17年10月~)	前年比	2018/19年度 (18年10月~)	前年比	2019/20年度 (19年10月~)	前年比	2020/21年度 (20年10月~)	前年比
収量面積	36318	37,000	+682	38,119	+1119	36,768	▲1,351	42,399	+5631	42,129	▲270	41,580	▲549	41,500	▲80
期初在庫	67,570	77,257	+9687	100,472	+23215	110,774	+10302	223,017	+112243	222,525	▲492	217,319	▲5,206	213,069	▲4,250
生産	218,490	215,500	▲2,990	224,632	+9132	219,552	▲5,080	259,071	+39519	257,330	▲1,741	260,770	+3440	250,000	▲10,770
年度輸入	3,277	3,000	▲277	3,174	+0	2,464	+0	3,456	+992	4,483	+1027	7,000	+2517	7,000	+0
暦年輸入	3,277	3,000	▲277	3,174	+174	2,464	▲710	3,456	+992	4,483	+1027	7,000	+2517	7,000	+0
暦年米国の輸入	2,386	103	▲2,283	321	+218	809	+488	308	▲501	319	+11	0	▲319	0	+0
在庫・生産・輸入合計	289,337	295,815	+6478	328,278	+32463	332,790	+4512	485,544	+152754	484,338	▲1,206	485,089	+751	470,069	▲15,020
年度輸出	80	20	▲60	4	▲16	77	+73	19	▲58	19	+0	20	+1	20	+0
暦年輸出	80	20	▲60	4	▲16	77	+73	19	▲58	19	+0	20	+1	20	+0
飼料その他	154,000	158,000	+4000	153,500	▲4,500	162,000	+8500	187,000	+25000	184,000	▲3,000	187,000	+3000	19,000	▲168,000
食料用	58,000	58,000	+0	64,000	+6000	70,000	+6000	76,000	+6000	83,000	+7000	85,000	+2000	87,000	+2000
国内総需要	212,000	216,000	+4000	217,500	+1500	232,000	+14500	263,000	+31000	267,000	+4000	272,000	+5000	277,000	+5000
期末在庫	77,257	79,737	+2480	110,774	+31037	100,713	▲10,061	222,525	+121812	217,319	▲5,206	213,069	▲4,250	193,049	▲20,020
期末在庫率	26.70%	26.96%		33.74%		30.26%		45.83%		44.87%		43.92%		41.07%	
生産・輸入	221,767	218,500	▲3,267	227,806	+9306	222,016	▲5,790	262,527	+40511	261,813	▲714	267,770	+5957	257,000	▲10,770
国内需要・輸出	212,080	216,020	+3940	217,504	+1484	232,077	+14573	263,019	+30942	267,019	+4000	272,020	+5001	277,020	+5000
需給バランス	+9687	+2480	▲7,207	+10302		▲10,061		▲492		▲5,206		▲4,250		▲20,020	
需要合計	289,337	295,757	+6420	328,278	+32521	332,790	+4512	485,544	+152754	484,338	▲1,206	485,089	+751	470,069	▲15,020
単収	6.020	5.820	▲0.200	5.893	+0.07	5.97130	+0.08	6.11030	+0.14	6.1081	▲0.002	6.3171	+0.209	6.0680	▲0.249

中国の飼料用穀物需給

20/21年度の中国の飼料等向けの穀物と穀物用小麦は前年度に比べて+3.2%増加した。アフリカ豚熱で打撃を受けていた養豚業が回復し、家禽と反芻動物の飼育が増加しているためである。東北地方のトウモロコシ生産地に台風が上陸し、ダメージを与えたが、借入前の数週間のことであり、全部が倒壊したわけではないため、全体の生産量にはそれほど影響はなかった。害虫のツマジロクサヨトウ（Fall Army Worm:FAW）の被害は予想程ではなく、トウモロコシの4%程度が被害を受けた。次年度はトウモロコシの輸入依存度が高まると見られている。しかし、トウモロコシ価格が歴史的な高値となっているため、モロコシ、大麦、古米、小麦等の在庫が飼料用に供される可能性がある。

中国の20/21年度の飼料用穀物及び飼料用小麦の需要は、19/20年度に比べて680万トン増、+3.2%増になると予想される。養豚業が回復し、養鶏業や反芻動物の飼育も増加している。資料需要は17/18年度のくい準に並び2億1890万トンと見込まれている。

20/21年度のトウモロコシの生産量は19/20年度の2億5千万トンから▲4%減と見込まれている。主にツマジロクサヨトウ（Fall Army Worm:FAW）の被害が見込まれており、また作付け時期と収穫前の天候の影響も見込まれている。6月以降トウモロコシ価格が高騰しており、8月初めにはトン当たり3000人民元（440ドル）と5年ぶりの高値になっている。飼料需要は増加傾向にあるが、トウモロコシ価格が上昇しているため、飼料用に他の穀物の利用が増えている。飼料用穀物を生産している一部の地域ではトウモロコシの約3割をモロコシや大麦、小麦等に転換している。中国政府は5月から9月までの間に15回のトウモロコシ在庫の入れを行った。中国では今後の飼料用需要の増加に対して、トウモロコシの輸入や古米や小麦の在庫により対応しようとしている。

飼料用品質の小麦の需要は、100万トン上方修正した。20/21年度のモロコシの輸入量は、トウモロコシの代替として200万トン上方修正し、600万トンとした。早場米の生産量は2,730万トンと103万トン上方修正され、2019年より+3.9%増となった。国内では作付面積が増加したが、洪水の影響で相殺されている。コメは中国南部で二毛作が行われている。

中国の農業政策

7月13日、中国農業地方省（the Ministry of Agriculture and Rural Affairs : MARA）と財務省（the Ministry of Finance : MOF）は中国の農業生産と農家の収益性改善計画という政策を発行した。これによると、黒竜江省、吉林省、遼寧省の東北三省及び内モンゴル省におけるトウモロコシと大豆の生産者に対して引き続き補助金が給付されることになっている。同時に中国全土のコメ生産農家に対しても補助金が給付される。また、品質の良い飼料用穀物を生産した県には報奨金が支給されることとなっている。



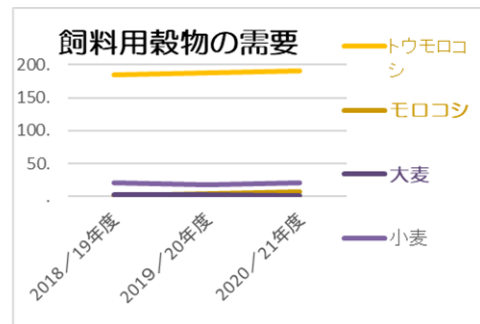
飼料用需要

20/21年度の飼料需要は、コメを除いて、2億1,890万トンと想定されている。前年度から+3.2%、680万トン増となっている。養豚と養鶏の増加が主な要因である。

2020年後半から2021年にかけての飼料需要は増加する見込みである。飼料協会の『2020家畜と生産年次レポート』のデータによれば、7月の養豚生産量は前月比+103%増の3,680万トンになった。養豚用飼料生産量は前年同月比+77.8%増となり、養鶏用は前年同月比+10%増であった。8月18日中国農業科学アカデミーハルビン獣医学研究所はアフリカ豚熱に対するワクチンを拡大スケール試験を行っていると報告している。今年の年末までにはワクチンは商業化される見込みである。

多くの飼料メーカーはトウモロコシ価格が上昇したため、モロコシや大麦、小麦を使い始めており、養豚用の飼料におけるトウモロコシの割合は55~60%だったものが、30~40%になっており、養鶏用は40~50%が20%になっている。

飼料用穀物消費予測			
百万トン	2018/19年度	2019/20年度	2020/21年度
トウモロコシ	184.	187.	190.
モロコシ	1.5	4.7	6.8
大麦	2.4	2.4	2.1
小麦	20.	18.	20.
合計	207.9	212.1	218.9



中国のトウモロコシ生産

20/21年度の中国のトウモロコシ生産量は、前回の予測と変わらずの2億5千万トンの見込み。ツマジロクサヨトウ (Fall Army Worm: FAW) の影響は予想程ではなかったが、東北地方では天候が大きく影響した。8月中旬マスコミは河北省でツマジロクサヨトウが昨年より10日早く発現したと報道した。そして初めて東北部に進出した。遼寧省では8月11日確認され、8月13日には24省の1193県野1600万ムー（約100万ヘクタール）でこの害虫が確認された。これはトウモロコシ作付面積の約2.5%に相当した。農業地方省は害虫の被害は生産量の5%に及ぶと推定したが、8月26日の報告では、思っていた程の被害は出なかったと言われ、その後この害虫に関するニュースは見られない。

8月終わりから9月初めにかけて、BAVI, MAYSAK, HAISHENの三つの台風が東北地方を襲った。まだ収穫が終わっていなかったトウモロコシに被害が出て、大連商品取引所におけるトウモロコシ価格が急上昇しトン当たり2300元（337ドル）に上昇した。業界筋はこれらの台風で、300万トン~1,000万トンのトウモロコシが被害を受けたと言われている。

中国のトウモロコシ需要

20/21年度の中国の飼料用トウモロコシ需要は、前回の予想から▲200万トン下方修正された。飼料用穀物需要は増加しているが、トウモロコシは価格が上昇したため、飼料用トウモロコシ需要は影響が出ている。飼料メーカーは30%以上のトウモロコシをモロコシや大麦、小麦に転換している。東北部で生産される輸出用のコーンスターチは3月と4月は好調だったが、トウモロコシ価格が上昇した6月以降の輸出需要は減少した。8月のコーンスターチ生産設備稼働率は前年比+2%増の62%だったが、エタノールの製造装置稼働率は平均42%で、前年比▲2%減だった。

トウモロコシ価格は6月以降上昇し始め、南部における洪水や農家の売り惜しみにより、8月初めにはトン当たり3000元（440ドル）と5年ぶりの高値になった。このため、トウモロコシの政府保有在庫の応札価格も上昇した。東北地方のトウモロコシ加工業者は2ヵ月分以上の在庫を入札で購入したと言う。20/21年度は2,000万トン以上の需給ギャップがあると思われ、業界筋によれば今後輸入割当が無くなり、輸入が困難になると言う。また政府保有の在庫はたくさん放出されたので、今後政府は在庫の補給のためにトウモロコシを購入するだろうと言う。

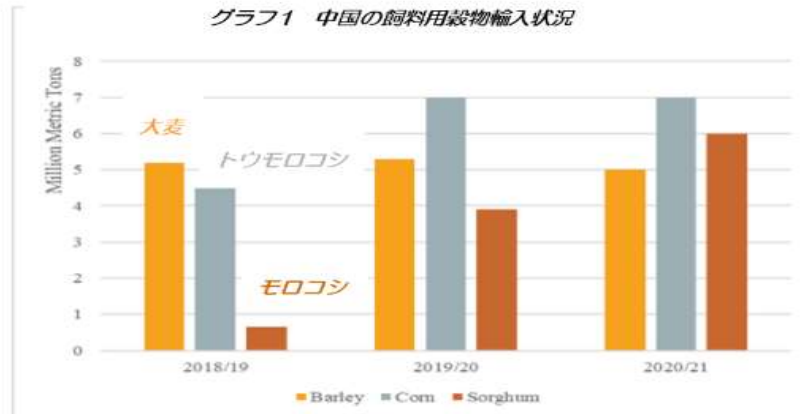


中国のトウモロコシの質

20/21年度の中国のトウモロコシ輸入量は、前回の予想と同じで、前年とも同じの700万トンと見ている。中国税関当局のデータによれば、1月から7月までのトウモロコシの輸入量は460万トンと前年同期比+30.6%増だった。業界筋の話では、輸入割当は720万トンが既に使用され、追加の500万トンの輸入割当を発行しているという。この500万トンの輸入割当はのうち200万トンが黒海からのトウモロコシ輸入に割り当てられ、300万トンが米国産だという。更に追加の輸入割当が2,000万トンの規模で検討されているという。税関のデータによれば、7月までに19/20年度産のトウモロコシが550万トン輸入され、7月単月で米国から310万トンのトウモロコシが輸入されたが、これは単月としては過去最大だという。8月末までに中国は米国産トウモロコシの19/20年度産を213万トン、20/21年産を358万トン輸入しているという。

現在中国が輸入するトウモロコシの輸入価格は国内価格よりも約10%安い。業界筋によればCOFCOは米国産のトウモロコシをトン当たり2,030元（298ドル）で輸入したというが、これは南部の国内価格より少なくとも200元（29ドル）安い。

グラフ1 中国の飼料用穀物輸入状況

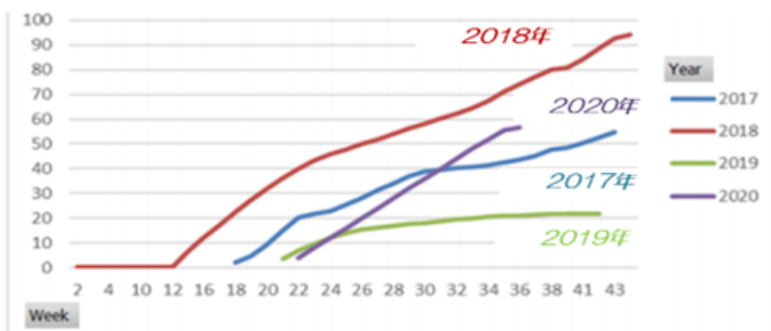


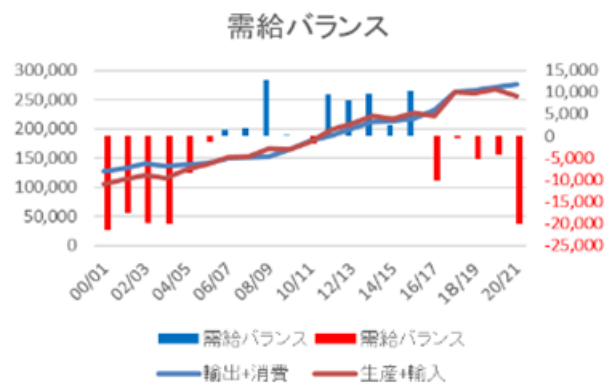
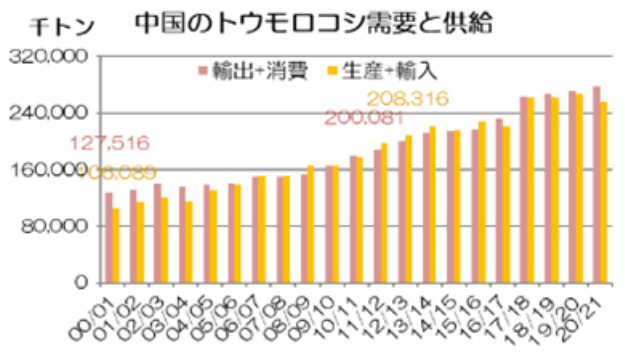
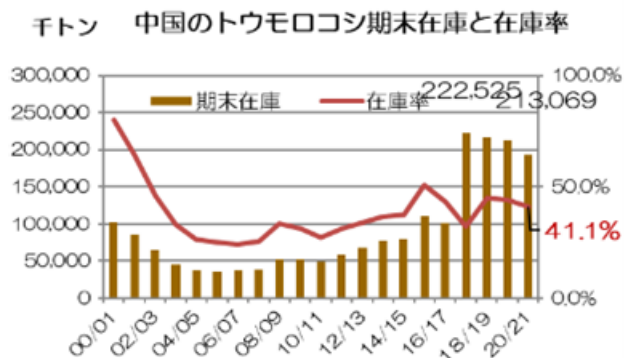
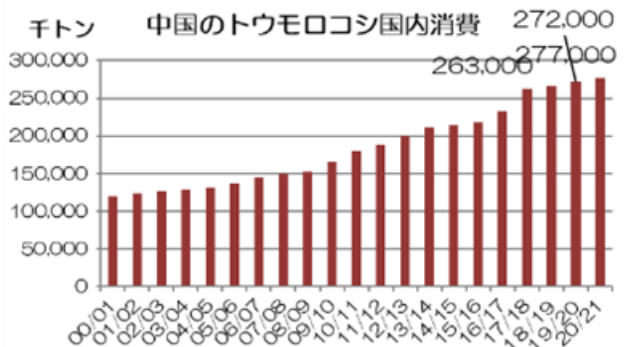
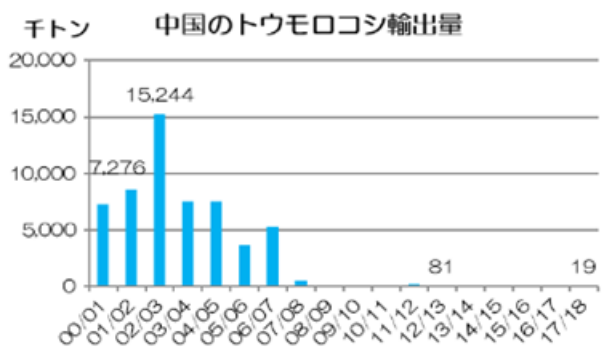
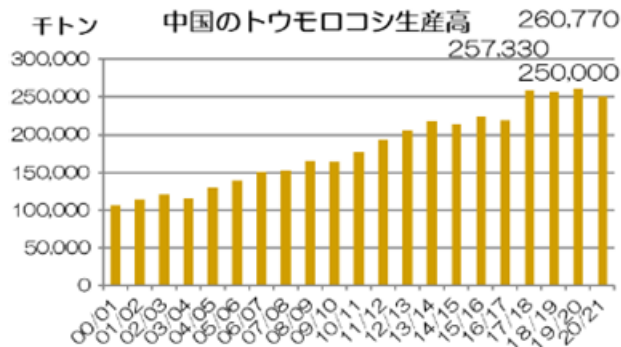
中国のトウモロコシの在

2020/21年度の中国の期末在庫は1億9,300万トンと前回予測より少し多く予測している。食品工業用需要が落ち込むためと見ている。

5月28日から9月3日までの間、トウモロコシの政府保有在庫が15回にわたって入札により放出された。大半は2015年産のトウモロコシである。全体のうち5,200万トンが最初の13週間で応札され、週当たり400万トンが成約された。売却価格とプレミアムは回を追うことに上昇した。14回目の入札が終わった段階で、残った在庫量はわずか535万トンだった。8月27日に行われた14回目の入札では、2016年産と18年産が供出され、最後に残っている在庫は400万トンになった。中国政府は2016年産を1,240万トン、2018年産を304万トン購入している。これらは現在535万トンだけ残っている。9月3日2020年最後の15回目の入札が行われた。これで合計5,684万トンが放出されたことになる。118万トンは2014年産、5,277万トンは2015年産、200万トンが2016年産、85万トンが2018年産である。

グラフ2 中国の累積トウモロコシ入札量 (単位 百万トン)



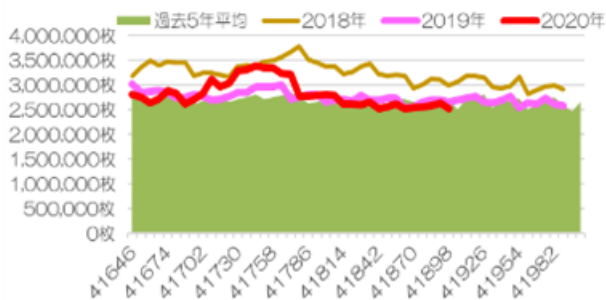
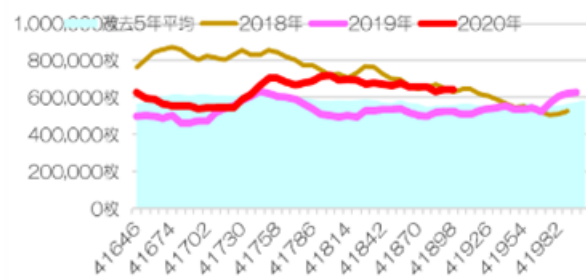
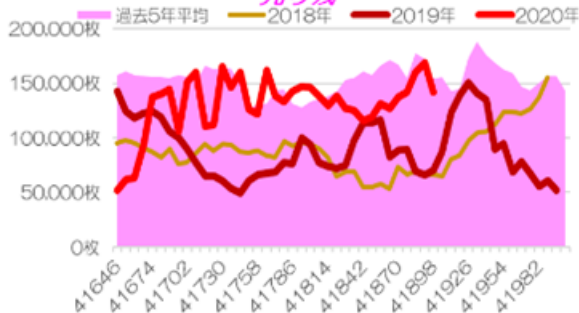
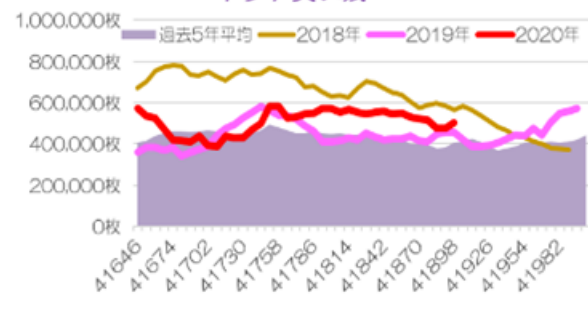




トウモロコシのファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
7月7日	+1,872,744枚	+246,736枚	+339,954枚	▲93,218枚	+58,963枚	¢343.5
7月14日	+1,876,486枚	+256,234枚	+326,141枚	▲69,907枚	+23,311枚	¢326.0
7月21日	+1,905,548枚	+263,916枚	+331,593枚	▲67,677枚	+2,230枚	¢322.8
7月28日	+1,950,332枚	+285,024枚	+349,572枚	▲64,548枚	+3,129枚	¢320.0
8月4日	+2,030,923枚	+295,757枚	+396,307枚	▲100,550枚	▲36,002枚	¢320.3
8月11日	+1,990,550枚	+289,827枚	+388,034枚	▲98,207枚	+2,343枚	¢323.5
8月18日	+1,936,499枚	+307,743枚	+342,963枚	▲35,220枚	+62,987枚	¢341.8
8月25日	+1,730,455枚	+309,004枚	+290,665枚	+18,339枚	+53,559枚	¢354.5
9月1日	+1,722,881枚	+312,416枚	+220,948枚	+91,468枚	+73,129枚	¢358.0
9月8日	+1,751,115枚	+318,688枚	+202,343枚	+116,345枚	+24,877枚	¢361.8
9月15日	+1,837,646枚	+340,202枚	+186,502枚	+153,700枚	+37,355枚	¢366.0
9月22日	+1,912,306枚	+360,697枚	+162,415枚	+198,282枚	+44,582枚	¢369.3
9月29日	+1,879,842枚	+359,287枚	+150,100枚	+209,187枚	+10,905枚	¢364.8
10月6日	+1,974,057枚	+385,104枚	+132,200枚	+252,904枚	+43,717枚	¢385.0
10月13日	+2,004,401枚	+409,119枚	+117,570枚	+291,549枚	+38,645枚	¢391.3
10月18日	+2,150,651枚	+459,208枚	+102,881枚	+356,327枚	+64,778枚	¢408.8
前週比	+146,250枚	+50,089枚	▲14,689枚	+64,778枚	+26,133枚	+¢17.5
2カ月前比	+214,152枚	+151,465枚	▲240,082枚	+391,547枚	+1,791枚	+¢67.0

10月25日時点のシカゴトウモロコシのファンドの買い残は+5万89枚増加し、売り残は▲1万4,689枚減少して、ネット買い残は+6万4,778枚増加して、35万6,327枚となった。11週間連続で増加となっている。

シカゴトウモロコシに対するファンドの
取組高シカゴトウモロコシに対するファンドの
買い残シカゴトウモロコシに対するファンドの
売り残シカゴトウモロコシに対するファンドの
ネット買い残



今後の予想

先週はブラジルで干ばつが発生して、ブラジル国内トウモロコシ価格は過去最高値を付ける程高騰していることを述べた。今週は中国のトウモロコシ需給に関する10月2日付けのGain レポートを翻訳したが、中国でもトウモロコシは5年ぶりの高値に上昇しているという。アフリカ豚熱の影響が無くなり、養豚数を増やしてきたことや、豚肉が出回らなかった時期に鶏肉需要が増え、また牛肉需要も増加したため、それらが飼料需要を押し上げている。一方で、中国東北部を今年3回台風が遅い、中国南部では洪水が発生し、トウモロコシが不足し大連取引所のトウモロコシ先物価格が高騰したと言う。中国政府は在庫を放出し、輸入割当も増やしているという。そのため、米国産トウモロコシが大量に輸入されている。こうした背景がシカゴトウモロコシ価格を押し上げている。まだファンドは買い残を伸ばしており、米国の収穫は終わったこの時期では、これ以上下がりようがないだろう。今後新型コロナウイルスの影響が緩和されてガソリン需要と共にエタノール需要が回復してくれば、トウモロコシ価格は当分高値にいるかもしれない。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



COMMODITY
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc